



第 1217 回例会報告

平成 22 年 3 月 24 日(木) 晴

会長挨拶

会長 長崎政直

続・東北地方太平洋沖地震

東北地方太平洋沖地震に際し、義捐金のお願いを申し上げたところ、会員の皆さん、快くご協力いただき、予定事業の中止や個人々人からのご寄付で、目標額である 100 万円を用意できました。あまり根拠のない金額でしたが、18 日に下諏訪町役場に預けてまいりました。議会開会中で、全く注目されませんでした。ロータリークラブらしくて良いかと思っています。ありがとうございました。

以前、セブ島支援がらみで、心的ミラーリングというお話をしました。心的ミラーリングとは、他者の痛み、悲しみ、喪失感、嫌悪感、喜びなどを目にすると、そのままそっくりその感情になって他者と同一化し、他者の脳と同じように活性化するという事です。その共感の後、他者の状態から自身の状態を切り離し、その上で、自分の中にある他を助ける本能に従って、直観的に道徳上の判断をして、それから救援行為、支援行為をするという心のメカニズムになっているとのことです。多分、その後は、被災者の明日から将来への想像力が働き、知的に意識された救援の覚悟が生まれ、私たちの救援への備えが出来ていくということだろうと思います。しかし、人間には、この利他的な本能と利己的な本能が共存し、その混沌としたものであり、交互に顔を出し、人間行動をおかしくしています。

先々週には、人間は、聴くという行為、読むという行為では記憶にとどまる量はわずか、何度も聴いて、何度も読んで、記憶の量を厚くすることが必要だという話もしました。感動(心が動くこと)も同様です。あの悲惨な状態を視覚的に捉えて心を動かしても、日が経つほどに、薄れ、今までの自分に戻ってしまいます。急いで義捐金や救援物資を寄せることが大事なのは、この悲しい人間の性ゆえかもしれません。

世界からの賞賛、「敬意と品格の文化」に対して、それに値する日本人、同胞でありたい」とも申しました。18 日、日本経済新聞 32 面に、「一人ではない」という

一文が、高嶋哲夫さんから寄せられていました。・・「日本人は勇気ある人々だ。常に自然の脅威と闘ってきた。彼らの信念と意思はどんなことがあっても挫かれはしない」「日本とその品行正しい勤勉な人々を神が守ってくれますように。きっと打ち勝てるよ」「あなたは一人じゃない。私たちが心を寄せ、そうして祈るから」「日本はもつとも偉大な国だろう！この災害だって何とかのり越える。世界の終わりがきても彼らなら何とかするはずだ」・・皆さんは一人ではない。日本中の目が、世界中の目が見守っています。どうか勇気を持って生き続けて欲しいと願う。「世界の人々が考え直すときがきた。殺し合いに力を使うのではなく、生き残った人々に心を伝えることこそが癒しの道だ。」「人種、宗教、国籍を超えて、人であることに変わりはない。目を覚まそう。自然を前に放り出されたら、殺し合いなんてしてられないんだから。お互いの痛みを和らげられることから始めよう。」「まったく同感です。

被災した人々への共感をしっかり心に刻みつけ、共に生きる努力を継続できるかどうか・・大きな課題です。

さて、東北地方太平洋沖地震により中止した LYRA 参加の青年達との懇談会は、当時 60 数名の諏訪からの参加に対して、応募して来た青年は 5 名、返信をくれた青年は 10 名に満たないのです。それでも 20% 近くの青年は、わずかであれ、心に何か残してしてくれました。私自身の認識や思い入れ、懇談会の目論みに、無理があった。この事業化は過ちであったと思ったりしています。私たちの心同様、若者達だって同じなのです。私たちロー

■ ニコニコ BOX	
0 名	0 円
累計	前回と同じ
目標額	130 万円
達成率	前回と同じ

■ 今週のこぼ

東北関東(東日本)大震災の被災者の皆様に対し
どんな手助けができるのか
出来ることから始めよう。

■ 出席報告

会員数	35 名
出席対象	35 名
出席者数	35 名
出席率	100.0%
前回修正	%

■ 次回のプログラム

4 月 7 日

クラブ会報・雑誌広報委員
会担当例会

今できること・これからやらなければならないこと



タリーの活動が、単発の自己満足に終わらないよう反省し、今後の活動を意味あるものにしていければと思っています。

◇幹事報告◇

連絡事項

東北関東(東日本)大震災への義捐金として 岩村会員・長崎会長をはじめ会員からの義捐金と本会計からの支出金を合わせ、金 100 万円を日本赤十字社へお送りするため当クラブ例会場所在地の下諏訪町に長崎会長が当会を代表して 3 月 18 日にお届け致しました。

1217 回例会 [誌上例会(自宅例会)]

東北関東(東日本)大震災により中止となった夜間例会に代え、誌上例会を行います。

新世代活動委員会

LYRA 交流会参加者へのアンケートの集計結果
発送数 55 通 住所変更による未着数 3 通 返信
9通 17%

1) '08年 LYRA in 下諏訪に参加して何か変わりましたか？

a 変わった 2名 22% b 変わらない 3名 33%
c わからない 4名 45%

2) 今後機会があれば LYRA に参加したいですか。

a 参加希望する 2名 22% b 参加希望しない 3名
33% c わからない 4名 45%

3) LYRA のような企画は必要だと思いますか

a 必要 6名 67% b 必要ない 0名 0% c わか
らない 3名 33%

4) ロータリーの事業に参加して友達の輪が広がりましたか。

a 友達が出来た 3名 33% b 出来なかった 3名
33% c わからない 3名 33%

5) その他、LYRA 等についてお気づきの点がありましたらお書きください。

*その節はお世話になりました。ロータリー事業に参加させていただきありがとうございました。

52 名の方に案内を送付して9通の返信でした。

25 周年の奉仕事業の点検と今後の進め方の中で、ライラ(LYRA)における青年達の取り組みには目を瞠めるものがあり、私たちロータリアンは多くの刺激を受けました。

それは年上の私たちが避けたり、ほったらかしてある課題に対して、彼等がまじめに向き合っていることや、私たちの物事への対応がいい加減だったり杜撰であつ

たりすることへの気づきなのかもしれません。この《青年達との交流》も残念ながら、その後の踏み出しがありません。

ローターアクトメンバーを含め、呼びかけた青年たちと、人生を考え、語り合ってみるのは大変意義あることだと考えます」と示されました。その結果としての事業でしたが、2 年余の時の経過と共に青年達に生まれたであろう感動も薄れてしまっているのだろうと思います。

単発では、刺激的であっても効果は薄いと思っています。青年対象事業の現実です。青少年育成の課題は重要です。それでも9人の青年にはその名残がありそうですし、LYRA のような企画の必要性については6名の青年が必要と答えてくれています。

自己満足のみにならないよう課題認識から再度取り組まなければならないでしょう。